



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/22 (月)	+ 700	▲ 4,900	▲ 4,200	国庫短期証券発行・償還 (3M・1年) 流動性供給 国債償還 (変動15年)	国債補完供給 ▲26,100		日：コア機械受注 (3月)
5/23 (火)	+ 1,000	+ 2,000	+ 3,000	国債発行 (5年)			米：新築住宅販売件数 (4月)
5/24 (水)	+ 1,000	▲ 1,000	ト	物価連動債発行 (10年)			日：工作機械受注 (4月) 米：FOMC議事要旨 (5月23日開催分)
5/25 (木)	+ 1,000	+ 14,500	+ 15,500	各種財政資金の支払い			米：新規失業保険申請件数 (5月20日終了週) 米：GDP (1Q)
5/26 (金)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000	国債発行 (40年)	新型コロナ企業支援 ▲ 5,355		米：個人支出 (4月) 米：個人所得 (4月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初前営業日対比+1兆1,300億円の545兆600億円から始まった。その後は5年、20年国債発行などを要因として減少し、週末となる19日には543兆8,400億円 (速報) となった。

無担保コールON物は週初15日積み最終日の調達意欲の高まりから▲0.023%より始まったものの、その後は新積み期の基準比率低下もあり同加重平均金利は▲0.034%~▲0.033%で推移し、週末19日には▲0.031%(速報) となった。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.040%~▲0.020%程度の水準で出が見られた。

来週の予定は、国内では、22日にコア機械受注 (3月)、24日に工作機械受注 (4月) などがあり、海外では24日に米FOMC議事要旨 (5月23日開催分) 25日にGDP (1Q)、26日に米国個人支出、所得 (4月) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは週央まで▲0.10%~▲0.09%の狭いレンジで推移した。国債買入オペがあった18日の取引では▲0.12%まで低下。短国の発行が重なる19日の取引でも大きなレートの上昇は見られず、▲0.11%~▲0.100%の出会いとなった。

SC取引は2年438~448回債、5年149~158回債、10年350~370回債、20年180~184回債、30年65~78回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.01

<CP>

今週の入札発行総額は約6,000億円で、週間償還額 (約5,400億円) を上回った。発行市場は、石油や鉄鋼等一部の業態で大型の発行が見られたものの、週を通して落ち着いたマーケットであった。発行残高は先週末時点の24兆2,473億円から18日時点で24兆2,672億円に増加した。発行レートは、0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の償還額は、約7,000億円となっている。発行市場は5・10日発行が重なることから相応の発行が見込まれる。発行レートは、0%近辺での出合いが中心となることを予想する。26日に、CP等買入れオペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

18日の1Y (1157回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1251% (前回債▲0.1258%)、平均落札利回り▲0.1371% (前回債▲0.1515%) となった。19日の3M (1158回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1523% (前回債▲0.1663%)、平均落札利回り▲0.1631% (前回債▲0.1756%) となった。

来週は26日に3Mの入札が予定されている。